

第 1 1 回

川でつながる 発表会

かいさいほうこく
開催報告

川でつながる 発表会



川でつながる 発表会

●平成 27 年 12 月 13 日 (日)

●狭山市立入曽公民館

新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川流域総合治水対策協議会



開催概要

■趣旨

新河岸川流域では、総合治水対策や水循環再生、多自然川づくりなどのいい川づくりに向けた取り組みの一環として、行政や市民団体、流域住民が情報・意見交換をする場として、「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催しています。

川でつながる発表会は、「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動の一環として、流域内の小学生から大学生までが行った、川や水、環境を対象にした様々な学習・研究、ボランティア等の活動の成果を発表し、意見を交換することで、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、世代を超えた交流が生まれるきっかけをつくることを目的に開催するものです。

■開催日：平成27年12月13日（日）10：45～16：00

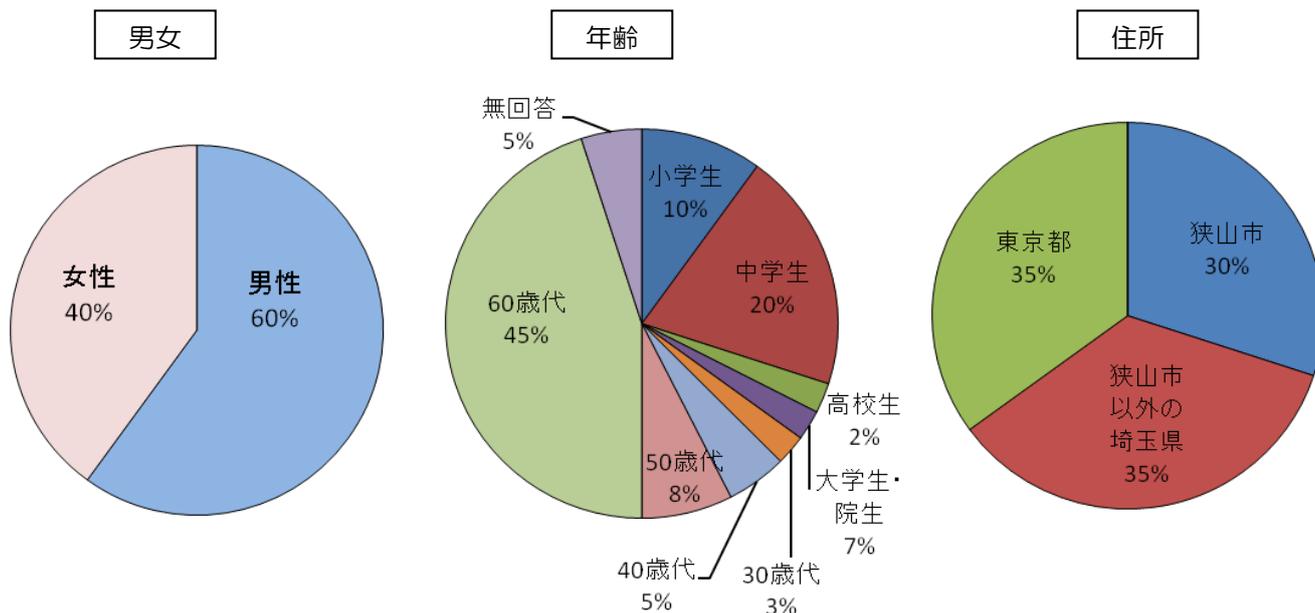
■開催場所：発表会本会場・交流会会場 入曽公民館

■主催：新河岸川流域川づくり連絡会
新河岸川総合治水対策協議会

■参加人数：約80人

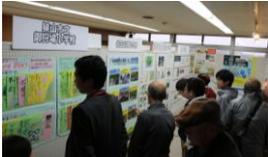
■参加者構成比：

n=40（アンケート回答者）





■当日プログラム

時間	内容	当日の様子	
10:30	受付		
10:45	開会 挨拶	午前の部（現地見学会）開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より「みなさまのおかげで11回目を迎えることができました。本日は、一日楽しんでいただきたいと思います。」という挨拶がありました。	
10:50	現地見学会	不老川流域川づくり市民の会の方による案内のもと、用水路、井戸、神社等、不老川における水循環の歴史に関する現地見学会を行いました。道中で、県の方より還流事業、市の方より入曽調節池の概要について説明がありました。 	
13:00	挨拶	午後の部（発表会・交流会）の開会に先立ち、不老川流域川づくり市民の会アドバイザーより、不老川では過去に幾度も洪水が発生したことがあり、当時は治水が主なテーマであり、今後においては、水環境改善に関する活動が活発になれば嬉しいとの挨拶がありました。 	
	発表会 発表（前半） コメント 質問	発表会（前半）は狭山市立御狩場小学校より「とび出せ！御狩場探検隊！」、明法中学・高等学校からは「明法科学部の水質調査」の発表がありました。 	
13:45	発表会 発表（後半） コメント 質問	発表会（後半）は法政大学水文地理学研究室より新河岸川流域を対象とした水質に関する研究、早稲田大学理工学部より水循環に関する基礎的知識の発表がありました。 	
14:25	交流会	水循環授業/ 流域誌に関する講演/ クイズラリー/ パネルセッション	今回は11回目の発表会で、新河岸川流域川づくり連絡会事務局では、これまでの10回の発表会をふりかえる写真展やこれからの水循環再生に向けて取り組みたいことを考える企画を実施しました。また会場内には、流域学校や川づくり団体による取り組みをまとめた力作ぞろいのパネル展示がありました。さらに、参加いただいた方々により水循環・総合治水について理解していただく企画として、狭山市道路雨水課による「水循環授業」や事務局による「雨水浸透実験」が行われました。今回の発表会では、法政大学水文地理学研究室と事務局の合同で、水との関わりの歴史を繋ぐ企画を実施し、多くの方にご参加いただき、賑わっておりました。   
		クイズ答え合わせ/ 表彰状授与/ 総括	荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状授与の際は、少々緊張気味の顔つきも受け取り後はみんなとても満足そうでした。最後に、新河岸川水系水環境連絡会より、「世代を越えて、つなげていければ川が元気になる」という挨拶がありました。 
16:00	閉会		
	記念撮影	恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。発表会にご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。 	



発表校紹介

みかりば
■御狩場小学校■

みかりばたんけんたい
とび出せ！御狩場探検隊！



狭山市立御狩場小学校からは、社会科学習にて学んだ、水の使われ方、不老川の歴史についての発表がありました。具体的には以下の説明がありました。『1学期の社会科学習では、“わたしたちのくらしの中で、水はどのようにつかわれているか”、水の流れをテーマに授業時間内で調べものをして、埼玉県内にある“川の博物館”を見学し、最終的にはテーマを決めて壁新聞を作成しました。“第1回全国小学生「わたしたちのくらしと水」壁新聞コンテスト”で努力賞を受賞しました。2学期の社会科学習では、歴史をテーマに活動を行いました。不老川流域川づくり市民の会の方を招き、不老川に係る昔のいい伝えや、水が流れていないことによって、どんな問題が発生するかを学びました。また、むかし不老川は日本一汚い川でしたが、現在は魚がすめる水環境に改善されたことを教わりました。人から教えてもらうだけではなく、実際に見に行かなければわからないこともあるので、七曲井、山王小学校から見える水野の畑・生活用水路の跡等を見学しました。社会科学習を通して、不老川についてもっと知りたいと思い、不老川以外の川もきれいしようと思いました。また、御狩場や水野地区の歴史について知れてうれしかったです。』発表の最後に、4年1組のみんなで歌った“不老川のうた”のテープが流されました。

めいほう
■明法中学・高等学校■

めいほう
明法科学部の水質調査



明法中学・高等学校からは、“科学部の活動”と“明法科学部の水質調査”についての発表がありました。具体的には以下の説明がありました。『まずは、6月に実施されている全国水質一斉調査に参加し、野火止用水を担当しています。また、一斉調査の時だけでなく、科学部の活動として、毎週土曜日に、水質調査を実施しています。水質調査の報告の前に、科学部の活動も知ってほしいということで、科学部の活動としてソーラーバイク・空気で膨らませるエアードーム式のプラネタリウムの制作や、富士見文化センターや所沢市役所で青色LEDのイルミネーションを展示しています。次に、空堀川と水質調査を紹介します。空堀川は、全長15km、流域面積26.8km²になります。COD（化学的酸素要求量）、PH（水素イオン濃度）、NO₂（硝酸イオン濃度）、NH₄（アンモニア濃度）の測定結果から、空堀川の水質は非常に良いことが分かりました。また、空堀川の水質調査については今後も継続していきたいと思っています。』



コメンテータによるコメント

①御狩場みかりば小学校

NPO 法人エコシティ志木より

- ・発表されてきた活動は、多くの視点から調査をしており、内容として濃こかった。発表の最後に”不老川のうた”を聞いてよかったと思う。

かわごえ環境ネットより

- ・みなさん、元気よく発表されていて良かったと思う。今後は地域事情しじょうや農業にも目を向けて物事を考えてみては、どうだろうか。また林と川の関係についても調べた方が良いのではないか。

②明法めいほう中学・高等学校

NPO 法人エコシティ志木より

- ・空堀川の水質調査の結果からPHが高いように見えた。指標しひょうの数値のみではなく、原因げんいんを探ることも重要であると思う。

かわごえ環境ネットより

- ・ソーラーバイクや、プラネタリウムなどの発想がとても面白い。水質調査については、水量もあわせて分析ぶんせきをされた方が良いのではないか。PHの低い要因分析よういんの方法として生態系せいだいの調査を含めて分析してみてはいかがだろうか。



ほうせい
■法政大学水文地理学研究室■

しんがしがわ たいしょう
新河岸川流域を対象とした水質に関する研究



ほうせい
 法政大学水文地理学研究室からは、“身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性（4）”と題し、新河岸川流域の水質についての発表がありました。具体的には以下の説明がありました。『2013年6月2日、2014年6月8日、2015年6月7日に行われた“身近な水環境の全国一斉調査”と連携し、採取サンプルを提供していただき、分析結果を取りまとめました。EC（電気伝導度）、COD（化学的酸素要求量）、TOC（全有機炭素）、pH（水素イオン濃度）の観点から指標結果をマップ上に示し、流域ごとに水質を把握しました。また、各指標との相関について分析し、相関性について考察しました。また、調査に与える降雨や気温の影響として、天候の影響を確かめる自記録計の結果や水温とECの時間的変化を分析した結果、雨によるECの低下がわかりました。最後に新河岸川流域の地域特性や水質を正確に把握するためには、より多くの地点おけるデータが必要となるため、市民の方と連携をしていきたいと思ひます。』

わせだ
■早稲田大学 大堀先生■

きそ
水循環に関する基礎的知識



わせだ
 早稲田大学工学部からは、“市民で守ろう、街の緑と水 ところざわ倶楽部地域の自然グループ&グリーンフォレストネットワーク所沢との活動”と題し、水循環における森林の役割について発表がありました。具体的には以下の説明がありました。『狭山市や所沢市にある武蔵野台地の概要として、地下水水位が低く水が得にくい地形でした。そのような地域特性の中で所沢では、約320年前に土地が開墾され、人と林の関係ができました。林ができることで、“緑のダム”の役割を果たし、降った雨が林で蓄えられます。緑のダムとしての機能をより正確に把握するために、早稲田大学が、これまで水田として利用されていた土地を1980年に買い取り、湿地再生に係る実験をしてきました。その結果、降った雨のおよそ9割は、地下水として蓄えられることがわかりました。これらのことから、水と緑を守るために、林と川の手入れをすること大切と言えます。』



コメンテータによるコメント

③法政大学水文地理学研究室に対するコメント

不老川流域川づくり市民の会より

不老川流域川づくり市民の会より

- ・水質分析について興味を持てた。
- ・高度な内容であっても、データを示して説明をしてくれたので、より理解が深まって良かった。
- ・調査については、継続的に行って頂きたい。
- ・前半の発表内容と調査結果との繋がりをもう少し明確にしてほしかった。

④早稲田大学 理工学部に対するコメント

不老川流域川づくり市民の会より

不老川流域川づくり市民の会より

- ・水循環の仕組み等について分かりやすく説明をしていただいて良かった。
 - ・水循環の一般論を分かりやすく説明してくださって、良かった。雑木林を増やすことの重要性を、大学での研究活動を通じて広く社会にPRして行ってほしい。そして我々のようなボランティア団体と連携ができればと思う。
-



感想カード

各団体の発表の後、参加者のみなさんには、事務局が準備した感想カードから発表への感想に最も近いものを選んでいただき、発表者に向けて掲げていただきました。

＜事務局が準備した感想カード＞



<p style="writing-mode: vertical-rl;">狭山市立御狩場小学校</p>	<p>＜多かった感想＞</p> <p style="text-align: center;">よくわかった</p> 	<p style="writing-mode: vertical-rl;">明法中学・高等学校</p>	<p>＜多かった感想＞</p> <p style="text-align: center;">よくわかった ためになった 共感した</p> 
<p style="writing-mode: vertical-rl;">法政大学水文地理学研究室</p>	<p>＜多かった感想＞</p> <p style="text-align: center;">ためになった</p> 	<p style="writing-mode: vertical-rl;">早稲田大学理工学部</p>	<p>＜多かった感想＞</p> <p style="text-align: center;">ためになった</p> 



○現地見学会

不老川周辺を散策し、狭山の歴史や還流事業や入曽調節池の概要を紹介！



入曽公民館



入曾用水（小川）



還流水吐口



入曾調節池までの道中



入曾調節池



七曲井までの道中



七曲井



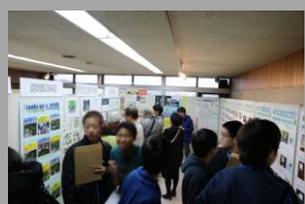
入間野神社

入曽公民館を出発し、入曾用水、還流水流出口、入曽多目的広場（調節池）、七曲井、入間野神社の順に歩きました。各地点で不老川流域川づくり市民の会の方に説明を頂きました。入曾用水では、中世以降、七曲井のみでは水が不足していることからつくられたとの紹介がありました。還流水の吐口では、埼玉県川越県土整備事務所の方より、還流事業の概要として、不老川の下流にある下水処理施設できれいにした水をポンプアップして、不老川に戻しているという仕組みの説明がありました。入曽多目的広場（調節池）では、集中豪雨など局地的な大雨で不老川の水量が増した場合に、一時的に貯留し、洪水を防ぐ役割を果たすなどの説明がありました。最後に、入間野神社で井戸の神、水の神が祀られていたという話で現地見学会を締めくくりました。



○交流会（水循環授業・流域誌に関する講演・パネル展示・クイズラリー・適切な水質調査の方法・雨水浸透実験）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！交流ブースも充実！



●水循環授業

狭山市道路雨水課からは、「水循環・総合治水授業」をテーマにし、授業をされていました。水循環については、“空からくる雨は、どこから来るのか”、“空からくる雨は、どこへ流れるのか”、“蛇口からくる水は、どこから来るのか”、“蛇口からくる水は、どこへ流れるのか”をテーマに、水循環の仕組みについて、説明をされていました。また治水事業については、昨今、度重なる洪水の状況について写真等を用いて被害の甚大さを説明し、雨水貯留浸透施設などの対策に係る説明をされていました。発表のまとめとして、水循環について考え、雨と上手につきあう方法を考え、行動するべきであると会場参加者に伝えました。また、一人一人水に対する意識を持つことが重要であると締めくくりました。

●流域誌に関する講演

法政大学からは、“水の自分誌”から「水の流域誌へ」をテーマに、お話をいただきました。流域の水環境保全には、水質調査等の数値的な分析のみならず、水環境誌を理解することも重要であると会場参加者に伝えていました。作成の流れとして、まずは個人レベルの流域誌を作成し、それを基に、支流、新河岸川流域へと発展させて、流域内の歴史を整理していきたいと紹介がありました。

●パネル展示等

パネル展示では、11回目ということで、これまで実施してきた10回分の発表会のようすをふりかえる写真展を掲示しました。また、新河岸川流域川づくり連絡会に参加いただいている市民団体や発表会に関連学校から、それぞれの取り組みまとめた力作ぞろいのパネルが展示されました。また、今年の交流ブースでは、「雨水浸透実験」「正しい水質調査の方法」に加えて、自分の水との関わりを呼び戻し、歴史をつなぎ合わせる企画を実施し、子どもから高齢者まで世代を超えて、交流を楽しむことがきました。



○交流会（クイズ答え合わせ・表彰状授与・総括）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！



●クイズ答え合わせ

クイズの問題を作成していただいた参加校の方から、クイズの答えの発表や解説等を実施していただきました。問題は、発表等を聞いていれば、回答できる内容となっており、参加者のほとんどが全問正解していました。

●表彰状授与

発表会の最後には、表彰状授与式および総括が行われました。荒川下流河川事務所長の里村より、「川でつながる発表会のタイトルに”つながる”とあるように、各発表の中に、地域、川、水等様々なつながりを感じることができました。これからも新河岸川流域における活動を進めていただければと思っています。」というとともに、各発表校の代表者に対して、賞状の授与が行われました。

●総括

新河岸川水系水環境連絡会より、「午前中の現地見学会は、不老川周辺を実際に歩くことができ、現場で見ることからわかることの大切さが改めてわかりました。閉会の時間まで、小学生が残ってくれて、嬉しく思います。歴史をつなぐという意味では、今の子ども達が成長して、家庭を持った時に、当時のようすを伝えて、20年30年と続けていくことで、日本の川がもっと元気になると考えております。」という総括をいただきました。



パネル展示の様子

◆展示いただいた団体◆

- 狭山市立御狩場小学校
 - 所沢市立所沢小学校
 - 不老川流域川づくり市民の会
 - 川越の魅力を育てる会
 - (社)雨水貯留浸透技術協会
 - 新河岸川流域川づくり連絡会
 - 北区立浮間小学校
 - 自由学園
 - NPO 法人エコシティ志木
 - 狭山市
 - 国土交通省 ^{あらかわ} 荒川下流河川事務所
- (順不同)



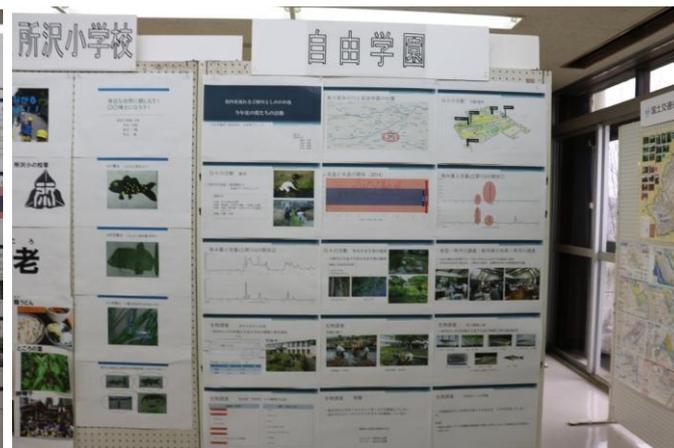
狭山市立御狩場小学校



北区立浮間小学校



所沢市立所沢小学校



自由学園



不老川流域川づくり市民の会



NPO 法人エコシティ志木



川越の魅力育てる会



狭山市



(社) 雨水貯留浸透技術協会



国土交通省荒川下流河川事務所

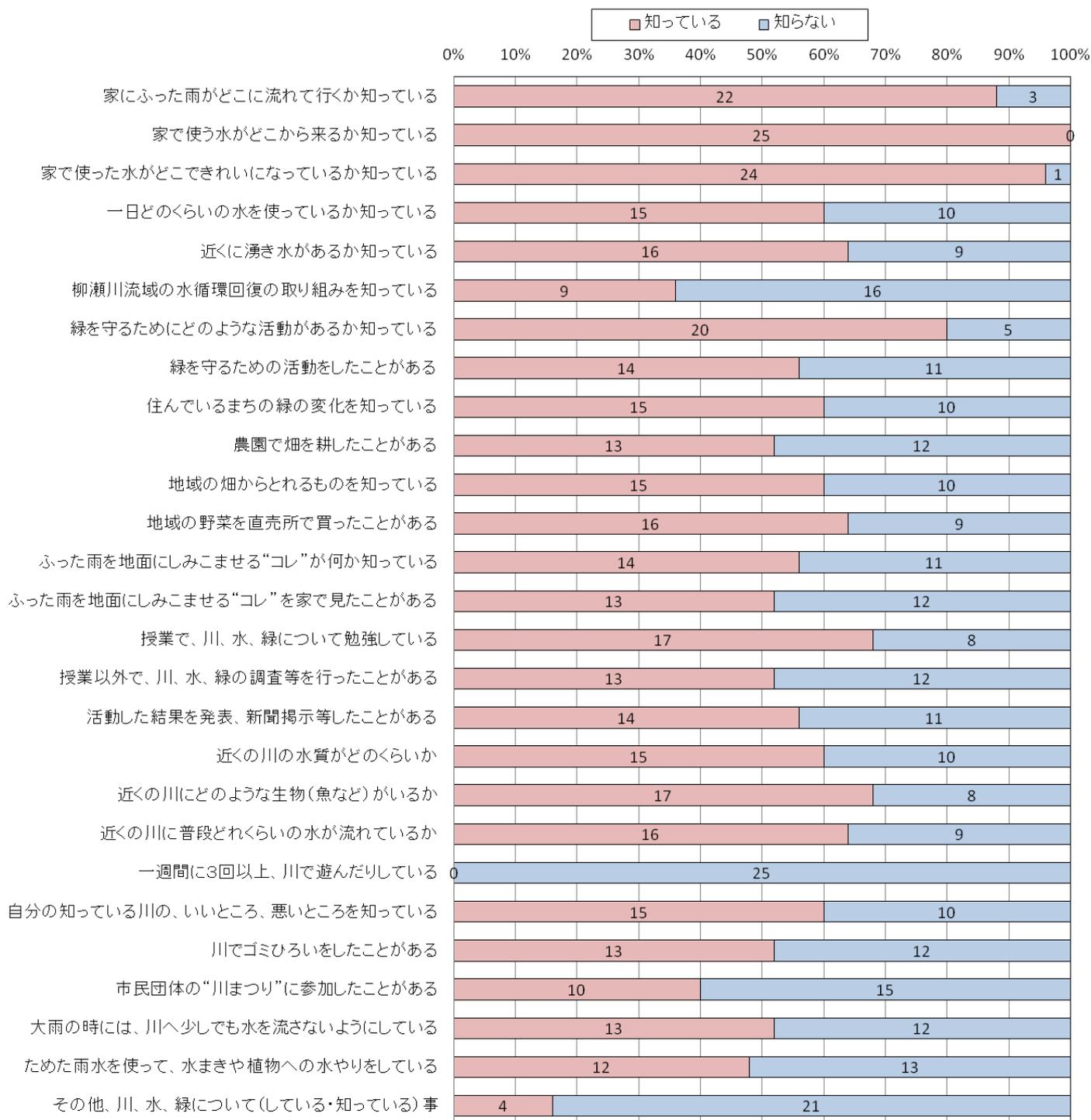


しがし
新河岸川流域川づくり連絡会



新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）結果

参加者の方々が、「水循環再生についてどのくらい知っているか?」、「水循環に関する活動をどのくらいしているか?」について回答いただいた「新河岸川流域水循環再生検定試験（学生版）」は以下のような結果となりました。

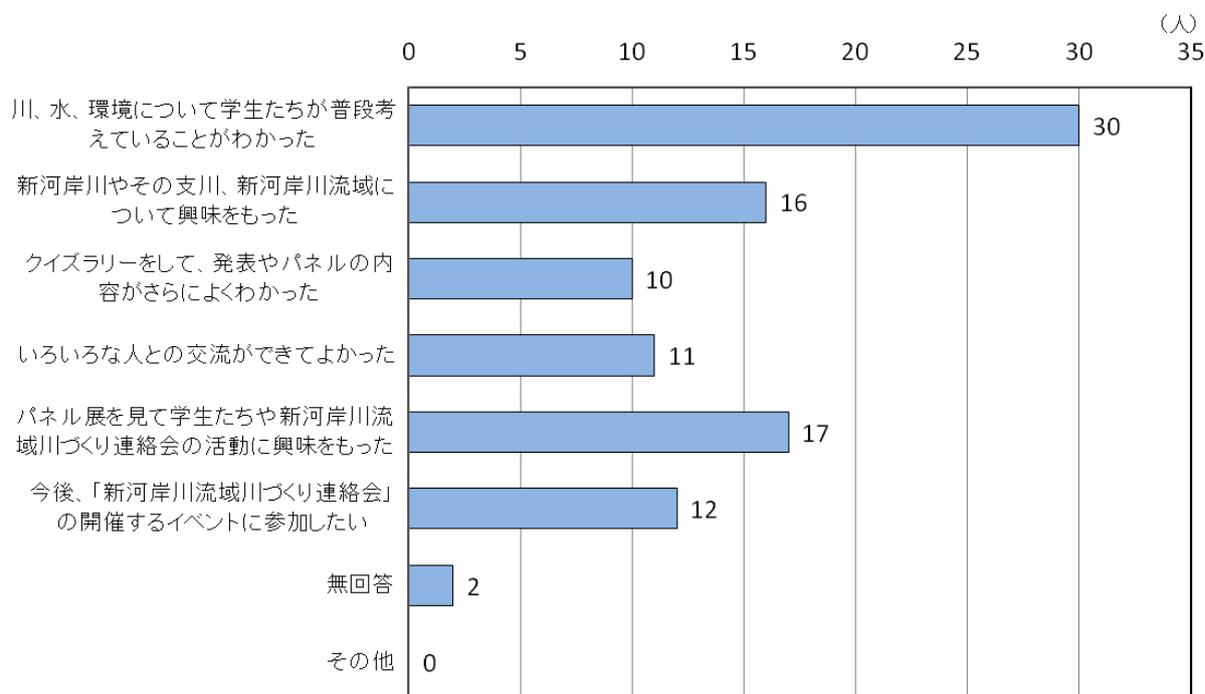


- ①自治体による水循環授業等の理解度が上がってきており、家で使う水の流れに関する理解度が昨年より25%高くなっている。
- ②地域特性も影響するが、徐々に外で川遊びをする人は少なくなってきている。



発表会を終えて（アンケート結果）

発表会についてどのような感想をおもちになりましたか？



◆参加者の声◆

- ためになる発表が多かった。
- また、来年度も参加したい。
- 見応えのあるパネルで、すべてのパネルが素晴らしかった。
- かなり準備されたことがわかるイベントなので、もっと大勢が参加できる仕組みを考えた方が良い。
- このような発表の場をとおして、子どもと地域がつながるきっかけになると良い。
- 先生や行政の方の発表は刺激になって良かった。



みなさん、本当にありがとうございました。発表会を通じて、新しく知ったことや新たなつながりを流域全体へとつなげていきましょう。

